

# 自彊前進

題字 西村直子

NO. 39 令和5年12月6日(水)

新潟大学附属新潟中学校 学校だより

文責 教頭

※ 自彊前進…自ら努め励み、前に進むこと  
(校歌3番の文言から)

## 真の附中生

前号で、生徒会冊子についてお話をしましたが、冊子のp1は次のように始まります。

### 附属新潟中学校生徒会憲章

#### —私たちの目指す附中生—

私たち附中生は今、たくさんのことを学んでいる。しかし、ただ学ぶだけではなく、自然との共生、人との共生を考え、周りの状況を知り、学んだことを生かしていく必要がある。そしてお互いを尊重し合っていく。

このことから、社会に関わっていくうえでも、附中生の一員として生活していくうえでも、次の点を大切にしていく。

- そのときの状況や自分の立場を自覚した上で判断し、自分の行動に責任をもつ。
- 集団の一員として役割を見つけ、行動し、集団としての力を高める。
- 他人、環境など広い範囲にも目を向け、積極的に行動する。

これらの定着をはかるために、次のスローガンを掲げる。

**〔自主独立・協同〕**

この生徒会憲章は、教師が作成したものではありません。昭和61年(1986年)の生徒会役員選挙立会演説会で、憲章制定に向けての活動がスタートしたようです。平成元年(1990年)には、『憲章制定委員会』が発足し、翌年には『憲章委員会』が設置され、その後数年かけて『憲章定着活動』が行われました。現在附属中学校にチャイムが無いのもその活動の成果のようです。

『私たちの目指す附中生』に『私たちの』という言葉がついていることから、生徒たち自ら設定したことがわかります。上記の姿こそ、『真の附中生』の姿であると言えます。よく吟味された言葉で、本質を突いており、いつ見ても素晴らしいと感じます。

学校だより第38号で、タブレットの使用に関わって望ましくない姿について記述しました。上述の『私たちの目指す附中生』の文言を踏まえると、『望ましくない姿』とは、『私たちの目指す附中生』とは真逆の姿を指し、学習のために大学から貸与されたタブレットでゲームをしたり、仲間を傷付けたりするなどし、『自分の行動に責任を』もてない姿ということになります。

2年生のあるクラスでは、タブレットを使用する必要が無い時、『望ましくない姿』にならないよう、自発的にタブレット庫にしまったり、仲間呼び掛けたりする等、具体的な取組が始まっているようです。また、現在保護者懇談が行われていることから、全校での清掃がありません。1年生で「いいと思ったことは行動していこう」という話があり、放課後自主的に清掃をしている生徒の姿がありました。素晴らしい姿だと思います。まさに、『私たちの目指す附中生』の『集団の一員として役割を見つけ、行動し、集団としての力を高める』を具現化した姿だと思います。このような動き、本当に素晴らしいです。これこそ、真の附中生の姿です！

